

焼津市消防団ドローン隊 スカイシュート

静岡県内で初めて設立！消防団のドローン隊

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。

今回は、焼津市消防団ドローン隊SKY SHOOTの隊長、副隊長にお話を伺いました。



SKY SHOOT隊長
長谷川隆人さん

1. 消防団にドローンを導入しようとしたきっかけについて教えてください！

長谷川さん ドローンは上空から周りの状況を俯瞰的に見ることができて非常に便利な道具です。

従来の消防の活動は、走って周りの状況を見て、指揮隊の方に戻って伝えてというように、効率があまりよくない状況でした。せつ

かく便利な道具があるので、例えば火災現場であれば、火点を中心に映像を撮り、周りの状況がどうなっているのか、指揮隊に映像で確認してもらうことができます。

大規模災害であっても、危険な道を行って見に行くのではなく、ドローンを飛ばせる範囲で空撮することで、二次災害に遭うリスクを冒さずに情報収集することができます。そういったこともあって、ドローンを全国に先駆けて導入しました。



2021年2月に導入されたドローン仕様の消防指揮車

ドローン隊はいつから設立されたの？

長谷川さん 1期生が2019年に各方面から2名ずつ8名が入り、民間検定を受けて組織されました。2020年度にさらに女性4名を含む8名が入り、民間検定を受けて全員が民間検定所持者ということになりました。

2. ドローンを操縦する上で特別な試験はあるの？

長谷川さん メーカーの検定試験があります。10項目程度あり、まっぴんなく取らないと合格するこ



〈インタビュー〉
増井好典 議員

SKY SHOOT
スカイシュート
火災や地震などの災害が発生した時に、人が近づけない場所や、目に見えない場所を状況把握し、消防活動の効率化を図ることを目的に設立された。



とができません。大抵10時間以上飛行させ、検定試験の項目を何回も反復してトレーニングを行い、屋内検定を行います。この活動服を着ている時は特別地方公務員という立場になるので、必要な技術と知識を持ち、その上で運用するためには検定の取得は必須であると思います。



SKY SHOOT副隊長
石川幸子さん

3. ドローンの操縦について教えて！

石川さん 初めは興味本位で取り組みましたが、操縦は大変でした。細かい動作だったり、GPSが入る環境、入らない環境で全然違ったので、心が折れたりして男性陣のようにすいすい飛ばせないと思いつつも、いろいろな人にサポートしていただきながら検定を受けました。

1. ドローンは一人で操縦するの？

石川さん 操縦するのは一人ですが、画面を見てもうなど、一人で飛ばす想定はしていません。そこはチームとして活動しているので、役割を持ち、操縦士は機体を見て、もう一人はバッテリーの残量等を確認して相談しながら活動をしていきます。



1. 技術習得のために心がけていることは？

石川さん 定期的にドローンを操縦することが重要ですね。時間があくと操縦感覚が鈍る可能性があります。

4. 議会に求めたいことは？

長谷川さん 消防団員は、普段生業を持ちながら活動に従事しています。消防団事務局が新規消防団員を増やそうとしている中で、団員個人の福利厚生の実もある程度必要なのかなと思います。団員数増加に繋げるため、議会の中でご意見を出し合っていただけだと思います。



〈インタビュー〉
川島 要 議員

5. 最後に目標について教えて！

長谷川さん 現在、ドローン隊員全員が検定に合格し、活動する上で必要な技能は身に付きました。今後訓練を重ね、災害現場においては、対応にあたる関係者がどのような映像を求めているのかを迅速に判断し、的確な映像を提供できるように訓練していく事が大事だと思います。

石川さん 消防団員が真正面から火災現場と向かい合っている時にドローンという違った視点を提供し、消防活動に活かしていきたいと思っています。

消防団員になると、防災や応急手当の知識・資格が取得でき、地域貢献だけでなく自身のスキルアップにも繋がります。

詳細はお近くの消防団員または地域防災課へお問い合わせください。

地域防災課TEL：054-623-2572

